

わたしたちの同窓生

≪95周年≫

会員数 26,701名

平成6年4月1日 現在



同窓会報

椎の樹

1994. 4. 1 第 8 号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校

同窓会

高崎市稲荷町20 電話 (0273) 62-2585

発行責任者 斎藤 民

印刷所 ほその印刷



ご挨拶

同窓会長 斎藤 民

同窓会員の皆様お健かに平成6年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

昨年平成5年は皇太子様のご慶事がございましたが、日本列島の南から北からと天災が相次ぎ起りました上に、政治経済の面でも不透明な事ばかり続きまして、不安定な年でございます。本年もまだその余波をうけておりますが、この様な時代には教育とか文化の活動が重視されてくるものと思われま。

母校も本年は95周年という大切な節目の年を迎えまして、長い歴史の重みをひしひしと感じておる次第でございます。

九〇余年にわたる輝かしい歴史と伝統を誇る本校に就任して、間もなく一年となりま。まさに「光陰矢の如し」時の流れの早さに戸惑い、社会の変化に圧倒される感を感じ得ない最近の心境です。

一一〇名の明るく活力に満ちた優秀な生徒達と情熱ある有能な教職員に恵まれて共に過ごす毎日、充実感に溢れており新しい発見に目を見張るなど、教員の幸せを実感しております。

この間、以前にも増して同窓会、PTA、振興会の方々から、実に行きとどいたご後援をいただきました。特に、同窓会の方々からの母校愛に満ちた暖かいご支援は、その各々の活動内容と相まって、他校には類を見ない高尚さと重厚さを兼ね備えたものです。また、久しぶりに前橋から地元の高崎に戻り、学校行事に限らず地域に於いても、多勢

校長先生を中心に先生方、在校生の皆さん学業に部活にスポーツに全力をあげて励んで立派な成績を収めておられます。同窓会も常任幹事、期別幹事、当番幹事を軸に、会報委員、名簿改訂委員、旅行委員そして校内理事の先生方のご協力をいただいでそれぞれのお立場で活動をしていただいでおります。

会報委員のご苦勞により会報「椎の樹」の第8号を皆様にお届け出来まして一同ホッとされているところでござい。5年後には母校100周年という大きなイベントをひかえております。100周年には同窓生

の同窓生と数多くの出会いや会話の機会に恵まれ、月日の経過と共に歴史を重ねた伝統の崇高さと学び舎で培われた精神や思想の高邁さを身に染みて感じ、高女と同窓会に改

不易のもの



校長 菊地 俊二

「不易」という二字が持つイメージの奥底には、美しい友情や或りし日の感動のほかに、人生で最も価値の高い心の機微に触れた精神的よりの

めて敬意を表しているところ。同窓会という二字が持つイメージの奥底には、美しい友情や或りし日の感動のほかに、人生で最も価値の高い心の機微に触れた精神的よりの

皆様に絶大なご協力をいただき、事になること存じますので本年95周年記念事業はミニ音楽会を催す事になりました。

開校記念日の五月一日に総会を開き、その後6名の同窓生と同窓会合唱団に演奏をお願いいたします。なにごぞ沢山のご参会をお待ちしております。

なご旅行も再開後、本年は10回目になりますのでお近いうちで多数ご参加いただけます様、日帰りも可、宿泊だけでも可、何種類かのケースを用意して、旅行委員が色々配慮して下さっております。

何卒会報その他につきましても、ご意見やご希望をお寄せ下さいませ。それ、それぞれのお立場で高女同窓生としてのご活躍をご期待申し上げます。ご挨拶にさせていただきます。

ころを培う場という意味が包含されていると思ひます。茶道の千利休が詩の中で「規矩作法守り尽して破るとも、離るるとも本を忘るな」と詠み、基本やその心の大切

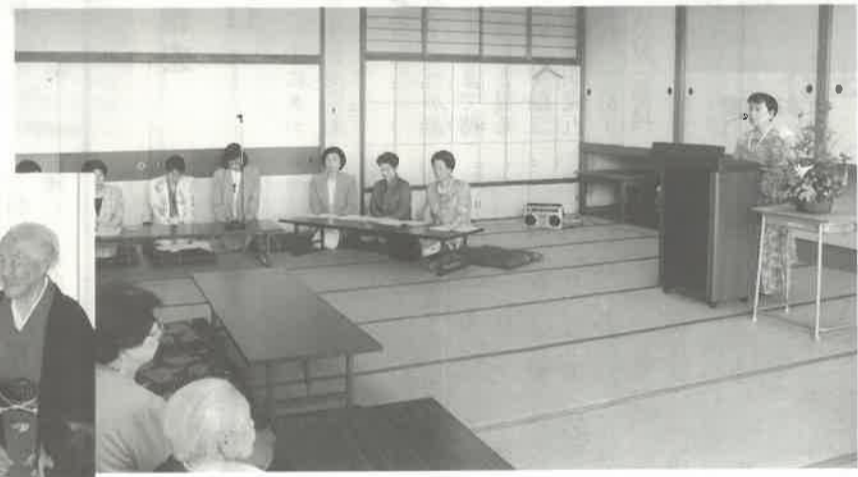
なことを説いています。今、世間の風潮として見直しや改革が叫ばれ、改めることが最善とされる傾向がありますが、教育に不易の理念があるように、学校には失うことのできない貴重な財産があると

思います。その一つが心のよりのことではないでしょうか。苦しい時、

同窓会入会式

平成6年3月1日(火)

同窓会総会 5年5月1日 於・椎樹館



平成五年五月一日(土)、母校椎樹館におきまして同窓会総会が開催されました。一五三名の方々がお参加下さり、和気あいあいと昼食会、談笑のうちに開始時間となりました。

まず、吉村副会長の開会のことば、続いて斎藤民会長の挨拶と流れるように進んでいきます。新任の菊地校長、PTA副会長池田氏より御祝辞をいただきました。そして役員紹介の後、議事に入りました。

岡田、渡辺両先生より事業経過報告、会計決算報告、さらに平成五年度事業計画と会計予算についてが審議されました。

した。また、椎樹祭準備委員会の吉村委員長より写真展への出品依頼、会報編集委員会の吉野委員長からの報告がありました。島方旅行委員長、浜合唱団運営委員長、京浜地区同窓会より多数参加が求められました。その後、笹本先生より新同窓会名簿の出版についての説明がありました。今年も九十九歳、九十一歳の新野さん御姉妹のお元気なお姿が拝見できました。しゃんと伸ばされた背筋、りんとしたお声に励まされました。最後に校歌を全員で合唱し、吉野副会長の閉会のことばで無事、総会が終了いたしました。(高17回担当)

悲しい時、困難に突き当たったりした時の心の支えは、高女での三年間で学び修めて、明るい人生を歩む基本の心としたいものです。

同窓生皆々様のご健勝をご祈念いたします。

入会のことば 江積佐知子 (新入会員代表) 張り詰めた空気の中にも風の優しさや春の息吹が感じられる季節となりました。只今、私達卒業生四〇七名は、三年間の喜びや苦しみ、数多くの後悔や人々への感謝そして将来への不安や期待を胸に、無事に卒業式を終了して参りました。今日まで漫然と眺めてきた校舎や周囲の先生方や友人の存在が急に特別な輝きを放ち始めました。三年間の勉学を成し遂げた事への自信や友人と分かち合

った青春時代の素晴らしい思い出は、これから厳しい社会に巣立っていく私達にとって大きな糧となることでしょう。そして今、同窓会入会式に臨み、高女の同窓生となり、長い歴史と伝統の一端を担うことへの緊張と誇りを感じております。伝統を受け継ぐという事は、それを受け入れて満足するだけでなく、私達一人一人が伝統をつくっていくという気持ちが必要で、自分自身の言動に責任を持ち立派な社会の一員となれるよう努力を怠りたくはなりません。

多くの素晴らしい先輩方を

見習い、後に続く後輩達の鏡となれるよう、自分らしさを忘れずに、また自分自身の弱さに負けぬよう、日々邁進していきたいと思ひます。まだまだ未熟者で頼りない私達ではありますが、先輩方の御指導を宜しくお願い申し上げます。

高校第46回卒業生同窓会 期別幹事

- 江積佐知子
○ 桑野 夕香
○ 高橋 貴代
○ 小野里真弓

母校95周年記念 演奏会
(卒業生で現役活躍中の演奏家による)
● 日時・平成6年5月1日(日)
・10:30~11:40 総会
・13:00~15:30 演奏会
● 場所=(椎樹館)
・総会……1階和室
・演奏会……2階



『源氏物語と私』に寄せて

一九九三年度総会記念講演

川村 通憲

(高17回)

権禱の懐に抱かれ、折々の思い出深い末広町の校舎で学んだ私は、

たくさんの椎の若木が枝を伸ばしている。稲荷町の校内に足を踏み入れる。胸の奥からつき上げてくる思いを感じつつ。皐月の暖かな、や、強くなりだした陽光が私の心を一層優しくする。

椎樹館では、九十九歳になる先輩を交え二〇〇名余りの同窓生が一同に会し、吉永先生の講演を今か今かと待ち受ける。時代背景、式部の意向、そして先生のご用意下さったプリント「いづれの御時にか」で始まる一帖桐壺を一同で音読みする。三年前に目にした徳川美術館の源氏物語絵巻が目に浮かぶ。宮人が衣づれの音をさせ、頭をすり寄

せて写本を楽しむ様が想像される。既に私達は11世紀の源氏の世界に入りこんでいる。当時は写本をこく僅かの人語りに聞かせ、行間に溢れてるものを語り合い、自分の点として、愛読され、読み培った事を日常の言葉に手紙に生かし、常に個性的であらんとした平安人。「如何に生き、死にたるか」の課題の解答を持つ源氏こそ古典と称せられる所以。そして人生の百科事典と言われる。

思いを重ねていったとの由。発音、速度等読み方を詳しく講義して下さる。当時の倫理観、常識で読む事こそ肝要であるとの由。とすればプレイボーイの話などと解する筈がなく、読み手の人格、品位が問われると先生は何度か力説された。また、当時教養の原点として、愛読され、読み培った事を日常の言葉に手紙に生かし、常に個性的であらんとした平安人。「如何に生き、死にたるか」の課題の解答を持つ源氏こそ古典と称せられる所以。そして人生の百科事典と言われる。

最後先生は現代に目を向けて、歌手の尾崎豊に光源氏を重ねて投影する。源氏を、幼少に母を失い、母の優しさを求める母恋慕の語とも解する。同様に若くして母を失い母の優しさを求める尾崎。彼の文学、音楽の世界は源氏のそれに通じるものがあると評価する。先生の研究の広さがうかがえる。

先生はユーモアを交え、澄んだお声で滔々と話される。日常喧嘩の中に生きる私の心の中に一陣の風を感じた。新たな目線で源氏を紐解いてみようと思われた方も多かったことでしょう。

蘇芳の会、万葉みさとの会を主宰。日本芸術史学会、説話文学学会、伝承文学学会、風俗学学会、会員。「最新国語辞典」「実用辞典」「用字必携」編集者。「旺文社の傾向と対策・小論文編」「大学入試問題正解集」執筆。他に各教科書の指導書等を執筆され

十二年間教鞭をとられた。吉永哲郎先生一九三八年、高崎市生れ国学院大学卒業、同文化研究所第一期生、現在県立前橋女子高校、教諭。高崎女子高校で昭和四十年から

「見学地の変遷」旅行地も時代と共に変遷し、大正時代では九日ほどで江の島、名倉屋、京都(桃山御陵)、奈良、伊勢(神宮)、東京(明治神宮)。昭和前期では、四年生の五月に約一週間かけて伊勢、奈良、大阪を経て京都二泊の行程が定着していた。写真は、松樹館に保存されている卒業アルバムの一部で、高女生の多くが利用し女子のみを選んで宿泊されること知られていた京都三条の大津屋旅館である。残念ながら現存しない。なお、昭和初期より終戦後の混乱期にかけての資料がまことに乏しい限りで読者の皆様にご寄贈等ご協力をぜひお願い致します。



吉永哲郎先生

講師紹介

角田智恵子(女39回)

吉永哲郎先生一九三八年、高崎市生れ国学院大学卒業、同文化研究所第一期生、現在県立前橋女子高校、教諭。高崎女子高校で昭和四十年から

文芸欄

芹の話 曾根ヨシ(高5回)

芹を摘みに行けというようにぼっかりと一日だけ暖かい風の流れる日があった埋め土がすぐそば迄きている休耕田にはいつくばり爪を青黒く染めて見知らぬ老婦人と二人風の吹きはじめた野で芹を摘んだ時をためこんだ大きな紙袋に芹はなまあたたく生き物のようにつしりと重い芹の香りの重さを運ぶ

陽のあたる庭の芝生に新聞紙をひろげ

一株ずつ指につまみ 陽に透かし枯れ葉もゴミものぞいてさぶさぶ芹を洗っていると野が足もとからはい上がる赤唐辛子二本と醤油とだしで大鍋で芹を煮ている農閑期のちよっと悠長な母の背中がみえてくる芹の葉の紫と緑の絨毯の上に土が盛られ病院が建つその最後の芹の根は庭の土に埋めておこう

詩誌「葉」39号より

盛況を極めた新年会

長野由美子 (高17回)



アトラクションは高三十四回の伴田順子さんのオーボエ演奏。なごやかな会場にマッチしたやわらかな音色を満喫し、拍手を送る。

平成五年度新年会が二月十三日、午前十一時より、二二三名の同窓生の参加により、高崎ターミナルホテルで開催された。前日の日本列島をおそった大雪で、足元の悪い中、多数の欠席者がでるのではという心配を外に、集った同窓生は今日の日の楽しみにして、万難を排して駆けつけて下さった。幹事一同、ホッと胸をなでおろす。

開会の辞より、斎藤民会長の御挨拶。年々参加者が増える事を喜び、来年度が高女開校九十五周年となるイベントの紹介。若々しい張りのあるお声、姿勢で、私達をいつも勇気づけて下さる。

同窓生の中には同好会に参加され、古典の講義を受けられている方が多数いらっしゃいます。

「親子孫心通いて校歌あり私が入学したのは大正五年。三蓋松繚いとりの袴に白い花緒の下駄で、京ヶ島から十キロの野道を歩いての通学は大変な四年間でした。毎日の朝礼と校歌、佐藤(牧)たけ先生のダンス、袴の裾を縛っての籠球など思い出の深いものです。師範、専攻科より教育界に入り、教え子を母校に送れたことは嬉びでした。今は夫婦で米寿を迎え、国内の旅を楽しんでおります。世代差も末広町と稲荷町の違いも、学び舎同志に漂う寄りどころが、六十余年差を和やかにしてくれるのは嬉びしいことです。母校の発展をお祈りしています。

松樹館だより

教頭 戸塚雅宏

『復活した修学旅行』

前回より新生高女が混乱の中でスタートした終戦直後の状況を見てみる。

「職員会議」

昭和二年五月七日、一、教科書、古いものはすべて廃棄。二、資料、古いものは原則として廃棄、参考書としても不可、三、寫真、拝する方法不可、四、刺語、神の言葉としては不可、五、遙拝、団体としては不可。

五月十四日「職員会談」一、校長の帰校、二、略三、生徒の風紀問題、四、映画の問題、頭髮、服装、自由なるが原則、五、遠足



大津家旅館

こうした慌だしい中であって、遠足についても議せられている。

「修学旅行」

関西方面への修学旅行が復活するのは昭和五年まで待たねばならない。旅程を見ると、五月二〇日未明、午前二時三分高崎駅発一東京駅発五時一分名古屋駅発一五時三分一奈良駅着二〇時一八分(奈良、費用は汽車賃往路三六〇円復路三五〇円、宿泊料奈良二五〇円京都三〇〇円を含んで合計一六五〇円であった。第一日の弁当持参はともかくとして、外食券は一二枚

この後も、米一升四合五匁ほどの持参はしばらく続く、所用時間も高崎から奈良まで二〇時間余と、現在ではヨーロッパまで往復出来るほどの時間で、当時の苦勞がしのばれる。最終日に温泉に立ち寄り「旅の疲れとよこれを風呂に入れて落とそう」という計画がこの後も続くことになる。

なお復活したこの第一回の奈良魚佐旅館は、昨年一〇月一三日平成五年度修学旅行で二年生四〇五名が投宿している(旅行後のアンケートで評判が悪かったが)。



川など茂る加は歩に散れ朝の河へ見

「見学地の変遷」旅行地も時代と共に変遷し、大正時代では九日ほどで江の島、名倉屋、京都(桃山御陵)、奈良、伊勢(神宮)、東京(明治神宮)。昭和前期では、四年生の五月に約一週間かけて伊勢、奈良、大阪を経て京都二泊の行程が定着していた。写真は、松樹館に保存されている卒業アルバムの一部で、高女生の多くが利用し女子のみを選んで宿泊されること知られていた京都三条の大津屋旅館である。残念ながら現存しない。なお、昭和初期より終戦後の混乱期にかけての資料がまことに乏しい限りで読者の皆様にご寄贈等ご協力をぜひお願い致します。

同窓会だより



第42回京浜地区同窓会

竹内一美 (高18回)

七月四日に、高女京浜地区同窓会が銀座の「高松」で開かれました。菊地校長先生をはじめ九人の先生方、また高崎地区からもたくさんの方に御出席いただき、百十六名の皆様と、とても楽しいひとときを過ごすことができました。

京浜地区支部長として、長い間ご苦労くださった小池美登子さんが今期で勇退され、林和江さんが引き継いでくださることとなりました。これ

紅葉の磐梯高原と岳温泉

有田啓子 (高18回)

秋の岳温泉
磐梯高原の旅
平成五年十月十七日(一泊二日)
十八日(一泊二日)
参加者・四十五名

十月の快いお天気、バスのエンジンの音、友人との語り、車窓に広がる景色、こんな旅行は何年ぶりだろうと、懐かしさでいっぱいになりました。卒業年度はそれぞれ違ってもバスの中は和気藹々と岳温泉へ向かって出発です。西那須野辺りの整った田畑は、眩しい程の黄金色がどこまでも広がり、のどかな気分です。いつの間にか福島県の雄大な景色の中をバスは走って行きます。安達太良山はとてもなだらかな山で、その麓に見学地の「智恵子の生家」があります。明治の初期に建てられたという造り酒屋で、勢いのいい番頭や、お客の声を聞こえてきそうな、明治の面影を残した興味深いものでした。裏庭に智恵子記念館があり、数々の紙絵の美しさに改めて感動しました。次に日本最大の菊の祭典、「二本松菊人形まつり」を見るため霞ヶ城跡に向かいましたが、ここでは菊の三万株という多さに驚き、世話をする人々の丸い背中が



目に浮かびました。暫くして宿泊地に到着し、宿では盛り沢山なお料理と、旧高女生らしく知的(？)に作家立でゲームに興じたりと楽しく過ごしました。

翌日も天候に恵まれ、車窓から見る磐梯吾妻八景の中の「つばくろの谷」「てんぐの庭」の紅葉は素晴らしいもので、「ワック」と学生に戻った様な感嘆の声と共に、バスも片向かばかりでした。さらに浄土平、五色沼、松原湖と見学し帰途に着きましたが、車中では、皆なごりを惜しむ様に、校歌を大合唱し別れました。

期別活動

山と湖の信州へ

速水好子 (女47回)

さつき会は、二泊の旅が続いていましたが、上信越自動車道開通を機に、31名参加一泊のバス旅行が五月に実現しました。

様々な悪条件を克服しての参加を喜びあいながら信州へと向いました。全国一万におよぶ「おすわさま」の総本社四宮の内、諏訪大社下社本宮上社本宮と二宮お参りし、名物のお豆を食べながら旅の安全を祈りました。

諏訪湖岸道路沿いの北沢美術館では、工芸に精した友の話を聞き入り、二階の現代日本画に魅了し、静かな時を過ごしました。

50メートルの高さに噴き上がる間欠泉や熱帯植物園を見学し湖畔のホテルに入りまして、部屋から湖が広く見渡せるので、寒中の「御神渡り」を想像していました。

夕食の席で同窓会合唱団の方々を中心に楽しい合唱。翌日心配していた天候は快



高校六年生の還暦旅行

金井幸子 (高3回)

昭和26年卒業の私達は終戦後の学制改革によって、高女に6年間存続しました。

卒業後、重なり合った6をとって「六月会」と名付け、3年毎、6月の第1日曜日に同窓会を開いてきました。ところが、同窓会を聞いてきました。同窓生全員が還暦を迎えた5年5月23・24日に瀬波温泉に行つて参りました。

集合時点から参加者35名は女学生になりました。溢れる活気でバスの中の賑やかなこと――車の速度まで加速されるようでした。



信州安曇野行

丸山典子 (高5回)

「このままの風景で、新しい家が建たなければいいのにね。」そんなわけにもいられないでしょう。安曇野を走るバスの座席の前後で会話がとび交い爆笑が湧きます。高五同窓会五七名の一行です。遠く初冠雪の北アルプスの雄大さに感動し、のびやかに展がる田園風景に心安らぎ、流れる水の清さに驚き、晩秋の林の静けさに心ひかれ……。疎山・ジャンセン・山岳等の美術館や等々力家・わさび田を訪ね、この地に息づく生活や文化に深い感銘を覚えました。大自然と人との調和を堪能する旅それはまた様々な人生を歩んだ同窓生の心の豊かさに触れ合う旅でもありました。



高18回同窓会を終えて

今井たみ子 (高18回)

十一月七日、サンピア高崎で開きました。七十七名の参加で賑やかに終始しました。四十余年間か生きて参りましたキャリアがそれぞれ輝いておりました。来年度は、私達十八回生が平成六年度同窓会の当番期に当たりますので、最初から最後まで、総会、旅行、新年会の各行事に是非参加して下さい。と期別幹事からのお知らせが続きまして、来年度

「高20回同窓会」記

高原京子 (高20回)

平成五年八月七日(出)、高20回卒の同窓会が、長谷川ホテルで、恩師九名、同窓会生五二名参加のもとに行なわれました。市内は高崎祭りや、華やいだ雰囲気会場まで伝わってきました。途中、四国徳島より、一日中車を運転して途中参加の友を迎えた時は、感激で、大きな拍手が湧きおこりました。会が終りに近づくと、25年の歳月も忘れてしまおうと若返り、三年後の再会を約束しました。

会を盛り上げて下さいました幹事の御苦労に感謝申し上げます。

「光をとらえ影をとらえる」
カメラで撮った女性のまなざし
第12回椎樹祭は同窓会のOG写真展で参加しました。母校椎樹館に素晴らしい45点の作品が並び好評をいただきました。出品参加者の益々のご活躍を期待いたします。

| | | |
|-------------|------------|-------------|
| 湯浅 愛子(女29) | 赤石 民世(女39) | 戸沢 よしの(女44) |
| 小和瀬 節子(高2) | 清 幸(高2) | 須郷 京子(高3) |
| 鈴木 千恵子(高7) | 丹下 清(高7) | 須郷 絹代(高7) |
| 関 房穂(高7) | 神沢 倫子(高8) | 横平 清枝(高8) |
| 浦野 千代子(高9) | 新井 伸(高9) | 横尾 ときえ(高12) |
| 静野 常世(高12) | 桐子(高13) | 野本 久美子(高13) |
| 日馬 方枝(高13) | 礼子(高13) | 武居 伸枝(高14) |
| 久保田 淳子(高16) | 玉江(高17) | 井田 佐恵子(高44) |



中国庭園、日本庭園を散策し、更に北方文化博物館で農の館や清水園、足軽長屋を見学し瀬波温泉夕美荘に到着。宴会では海の幸に舌つづみをうち、カラオケでの素人はなれの歌に学生時代と同じで違った年輪を感じたりしました。また日本海に沈む大きな太陽に声もなく見とれた事も強烈な思い出になりました。翌日は遊覧船で笹川流れの景観を楽しみました。

群青の湧より生るる
海燕 桂川 昌子
その後、村上堆朱工芸館、岩船鮮魚センターでまたまた土産を増やし予定より早く帰高。これからは毎年、という約束もできた還暦旅行でした。

同窓会 総会開催の お知らせ

春の息吹きを強く感ずるこの頃ですが、同窓の皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。

さて、総会・95周年記念演奏会を下記により開催いたします。

お誘い合わせて、多数ご参加くださいますようお願い致します。

- 日時 平成6年5月1日(日) 10時30分より
- 場所 母校 椎樹館
- 日程 10:30~11:40 総会
12:00~12:50 昼食
13:00~15:30...↓

《95周年記念演奏会》
出演者
ピアノ 塩谷景子(高35)
林美奈子(高37)
声楽 松原守恵(高34)
中山あづさ(高34)
作品発表《笙》
東野珠美(高37)
ヴァイオリン
森 砂織(高39)
同窓会合唱団

・会費 1,000円

※同窓会維持費中間報告 (H. 6. 3. 16現在)

【収入の部】
維持費納入金 3,793,000円
(平成5年度 2,980人分)
預金利子 10,889円
計 3,803,889円

【支出の部】
会報椎の樹第8号印刷代、他(予定) 1,200,000円
通信費補助(郵送料値上げのため本会計より補助)(予定) 300,000円
計 1,500,000円
残額(予定) 2,303,889円
・前年度までの維持費合計6,250,000円は定期預金へ(100周年基金等)
・同封の振込用紙に必ず卒業回期の記入をお忘れなく年間1口 1,000円の納金をお願い致します。

新卒業生の進路状況
国立4年制(87)、公立4年制(34)、計(121)、国立短大(24)、私立短大(99)、(37)、私立短大(99)、各種専修(13)、就職(4)以上のべ数。



平成6年度行事予定

| | |
|----------------|--|
| 5/1(日) | 総会・95周年記念演奏会 母校椎樹館 |
| 10/16(日)~17(月) | 親睦研修旅行 伊香保温泉 万座殉難慰霊の碑 長野県小布施町を訪ねて |
| 2/5(日) | 新年会 高崎ビューホテル |
| 3/1(水) | 新会員入会式 母校椎樹館 |
| 3/下旬 | 会報9号発行 |

- ※会議 (1) 常任幹事会
(2) 期別幹事役員会
(3) 旅行企画委員会
(4) 会報編集委員会
(5) 合唱団運営委員会
(6) 当番期会議(高18)
(7) その他必要による

※ 総会、旅行、新年会、合唱等諸行事へご参加ください。
= 旅行の申し込み =
9月1日(木)10時~15時、
母校椎樹館事務室



● 母校の近況
(平成6年4月1日現在)
教職員の変更
退職：岡田俊子
兼任：戸塚雅宏(校長松井田)
柴田精司(教頭前女)
齊藤和義(高々)
小久保博(自然史博物館)
宮下政己(教育センター)

着任：戸部正行(教頭・桐高)
永井正(藤高)
小林功(富東)
関弘子(松井田)
鈴木千春(前西)
鳥山広一(沼女)
高柳純子(新採)
御供里絵(新採)
以上の諸先生

《ロマンへの彷徨》=美術館・文学館巡りの旅=
日時 6年10月16・17日 参加費 31,000円
16日(日) 高崎(9:00) - 伊香保(15:30)
ぐんまフラワーパーク・福沢一郎美術館・徳富盧花記念館・伊香保(千明仁泉亭泊) ☎0279(72)3355
17日(月) 伊香保(9:00) - 高崎(19:00)
万座殉難慰霊の碑・小布施町散策
● 申込 9月1日(木)10時~15時(母校椎樹館) ☎0273(62)2585
● 今回は10回記念ですので祝宴と宿泊のみのご参加もお待ちしております。(参加費18,000円)

親睦旅行の
おさそい
平成6年度
親睦旅行の
おさそい
吉野烈子(高9回)
第八号編集委員
島方睦美(高15) 川口貞子
神戸多香子(高16) 善如寺尚
子・下村千加子・長野由美子
大久保路子(高17) 設楽多恵
子・有田啓子(高18) 武井治
子・前田房子(高19) 高原京
子・齊藤信子(高20)

高女同窓生の皆様、お元気でいらっしゃいますか。おかげ様で私も、パリで元気に頑張っています。

今こちらは音楽会のシーズンたけなわです。ここ二・三年不況続きとはいえず、毎夜パリのあちこちでは音楽会が開かれ、音楽愛好家達の耳を楽ませています。

さて今日はどういう風にフランスの人達が、音楽と仲良く生きていくのか？ 私のリサーチした事を書きたいと思っております。

フランスの小学校では、音楽の授業はありません。気が向くと、国語の授業の延長として、ギターやアコーディオンでみんなで歌を歌うという事はありますが、本日の授業らし



細矢千鶴 (高22回)

フランスの音楽教育

「これはかなわん。」ことずよね。それに、これではみんな音楽が嫌いになってしまっているのではないかしらと思われませんか？

「一人一人の心の中に、本格的に音楽を取り組んだという事は、生きていく上で大きな財産となるでしょう。このようなコンセルバトワールはフランスの津々浦々にあるのです。」

ヨーロッパの冬の夜はとにかく長い。音楽を聴く人々だけなく、奏でる人間もたくさんいるのです。

以上、フランスの音楽教育について私の気づいたことを少し書いてみました。それでは皆様さようなら。

平成五年冬、パリにて

ノボジュール展
高他禮子(高15回)
今から二年前の二月、恒例の高女同窓会新年会の会場で顔を合わせた高15回の仲間達。最近絵を描いている？から始まって、一緒に展示会を、とまとまったのがノボジュール展です。画歴・画風はさまざまですが、全員同じだけの年齢を重ねてきたのが強味の美術展です。油絵が中心ですが、豊田一男先生の教え子という事で、ハガキ大の蠟画9枚を組み合わせたタイトル画を作りました。その半年後に開催した第一回展は、入場者が約600名。昨年十一月の第二回展も反響は大きく好評で、会場には「我らの素晴らしき日々」を共有する姿が溢れました。高女の新年会が縁で生まれたこのミニ同窓会が、今後もみずみずしい感性の表現の場でありたいようにと、

「これはかなわん。」ことずよね。それに、これではみんな音楽が嫌いになってしまっているのではないかしらと思われませんか？

「一人一人の心の中に、本格的に音楽を取り組んだという事は、生きていく上で大きな財産となるでしょう。このようなコンセルバトワールはフランスの津々浦々にあるのです。」

ヨーロッパの冬の夜はとにかく長い。音楽を聴く人々だけなく、奏でる人間もたくさんいるのです。

以上、フランスの音楽教育について私の気づいたことを少し書いてみました。それでは皆様さようなら。

平成五年冬、パリにて



【顕彰】
* 故戸田クニ(女6回)先生は、わが国最初の女性医学者(医化学・生化学)として活躍され、『高女90年史』にも6頁にわたり紹介されています。その業績を讃え、後世に伝えようと、没後五十年を記念して桐生市の妙音寺に彰徳碑が建立されました。(平成5年10月31日)
* 斎藤 民著『音楽とその心』が、平成五年度、上毛出版文化賞を受賞し11月29日表彰式が行われました。永年にわたり県内の音楽教育に携わり、現在も第一線で活躍されている一筋の歩みと、教え子等多くの方々との交流など、音楽への熱情あふれる内容が教育芸術の面から高い評価をいただいたものです。
* 本島阿佐子さん(高37回・ウィーン留学中)は平成5年6月ドイツ・ツヴィツカウで開かれていたロベルト・シューマン国際コンクールで、声楽部門の第2位(1位なし)に入賞されました。本島さんは国立音大、同大学院修了後、日本歌曲コンクール第3位等を受賞しています。

「新企画の同窓会名簿発行」
名簿刊行委員会 委員長・笹本幸子(女44回)
コンピュータ方式で刊行して以来、三回目の発行です。昨年七月より名簿刊行委員会にて内容検討を重ね、より親しみ易く、なつかしい・ページを開くと友の顔が浮かんでくるような名簿に、と業者と契約、作業を進めております。

特色その一 名簿が語る同窓会の歴史です。明治35年第一回卒業生28名、客員12名で発足以来、活動が母校に寄り沿い明治、大正、昭和、平成と歩みまわりました。一目ご覧いただければその重厚な歩みがおわかりいただけると思います。

特色その二 歴代同窓会長・副会長を記載しました。やがて百年になる母校と共に、さて現在は何代目になるでしょう。ご存命でない先輩会長から昔の様子を伺えず残念ですが、お名前がやっと探せました。

特色その三 高校卒回期は卒業時のクラス別にしました。以前は卒業と同時にクラス単位を解体のため、同窓生としての関心・意識は薄らぎがち。より連絡しやすい友人関係を願って、昔のアルバム等をたどって、いささか困難でしたがクラス別に整理をしました。

委員は昔の資料集めに奔走し、整理は次回迄の宿題分相。まとめた全員で月一回委員会を開き、進めてまいります。同窓会の歩み調査では、先輩方の熱い母校愛と、様々な活動を既にお手元にハガキが郵送されたと思いますが、一層のご協力をお願い申し上げます。

「おかわりありませんか。」
「はい、おかげさまで……。」
こんななにげない言葉をかわせる幸せを、しみじみと思うこのごろです。

親子三代高女を卒業され、お元気でいられる方々を、今回より御紹介させていただきます。編集委員では、「四代」はいらっしゃらないかしら……と、楽しく話が弾みました。身近な方の御様子を是非お知らせ下さい。

各地からのお便りもお待ちしております。

編集委員長

お知らせ
コーナー
高九回卒業の皆様へ
平成五年十月六日、連絡のとれた28名で親睦会を持ちました。今年も計画していますので一組笠原郁子、二組樋口明子、三組金井光子、四組富沢律子、五組工藤由紀子、六組塩沢伊代、七組釜田征子の皆さんにご連絡ください。